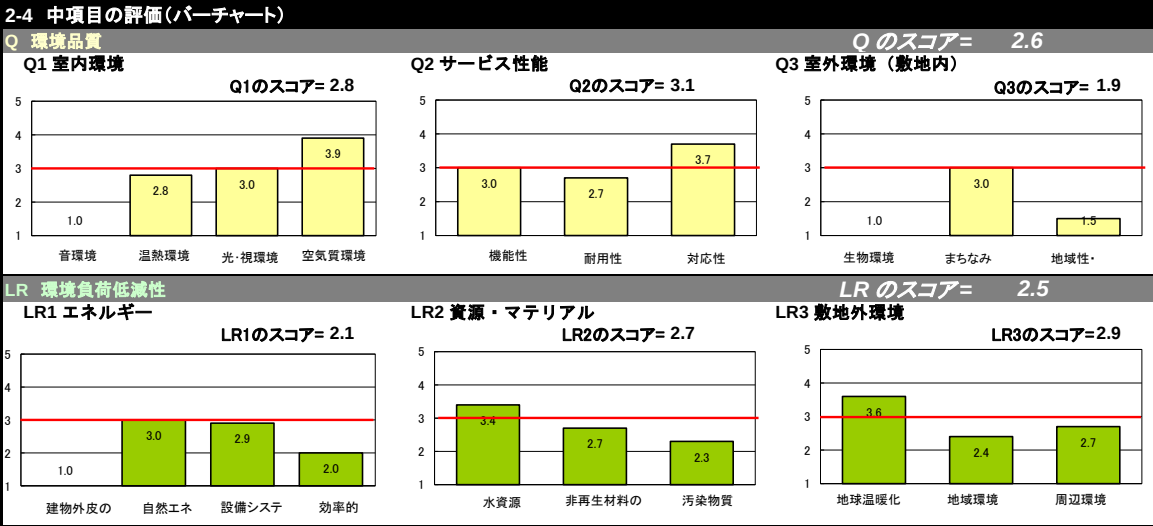
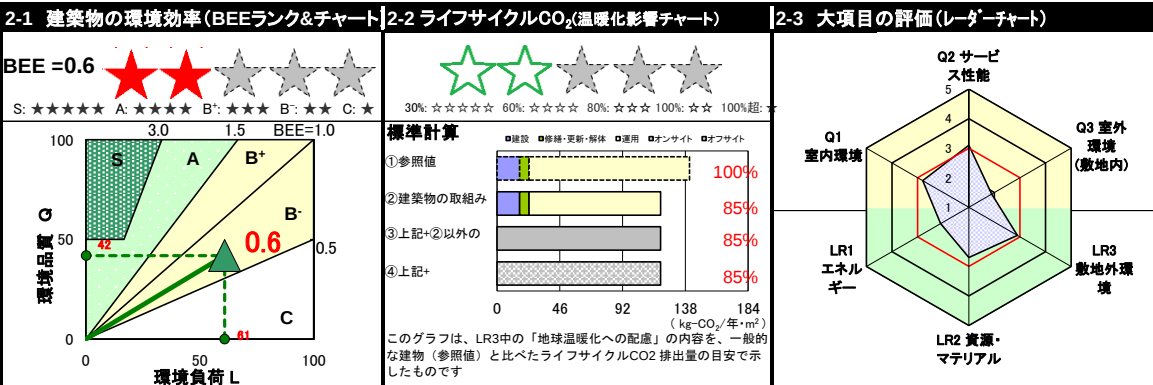


1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	カインズ岡崎美合店	階数	地上2階	
建設地	愛知県岡崎市美合町字入込68-1他8筆	構造	S造	
用途地域	工業地域(用途地域を記入)	平均居住人員	1,800 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	5,475 時間/年	
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2025年9月 予定	評価の実施日	2024年12月6日	
敷地面積	24,434 m ²	作成者	村手 基	
建築面積	10,055 m ²	確認日	2024年12月6日	
延床面積	10,438 m ²	確認者	村手 基	



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	
3.6 	1.0 	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		25.7 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	
2.9 	1.0 	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
カインズ岡崎美合店

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体	
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体			
	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点					
Q 建築物の環境品質									2.6			
Q1 室内環境					0.40			-	2.8			
1 音環境				0.1	1.0	0.15	-	-	-	1.0		
1.1 室内騒音レベル				3.0	1.0	0.40		3.0	-			
1.2 遮音				0.4	1.0	0.40		-	-			
1 開口部遮音性能				-	1.0	1.00		3.0	-			
2 界壁遮音性能				-	3.0	-		3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	-		3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-		3.0	-			
1.3 吸音				-	1.0	0.20		3.0	-			
2 温熱環境				0.3	2.8	0.35	-	-	-	2.8		
2.1 室温制御				0.5	2.6	0.50	-	-	-			
1 室温				3.0	3.0	0.50		3.0	-			
2 外皮性能				3.0	1.0	0.17		3.0	-			
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.33		-	-			
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.20		3.0	-			
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.30		3.0	-			
3 光・視環境				0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0		
3.1 昼光利用				0.5	3.0	0.50	-	-	-			
1 昼光率				3.0	3.0	-		3.0	-			
2 方位別開口				-	-	-		3.0	-			
3 昼光利用設備				3.0	3.0	1.00		3.0	-			
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-	-			
1 昼光制御				5.0	3.0	-		3.0	-			
3.3 照度				3.0	3.0	-		3.0	-			
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.50		3.0	-			
4 空気質環境				0.2	3.9	0.25	-	-	-	3.9		
4.1 発生源対策				0.5	5.0	0.50	-	-	-			
1 化学汚染物質			建築材料はJIS・JAS規格のF☆☆☆☆建材をほぼ全面に使用	3.0	5.0	1.00		3.0	-			
4.2 換気				0.3	4.0	0.30	-	-	-			
1 換気量				3.0	3.0	0.50		3.0	-			
2 自然換気性能				3.0	3.0	-		3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮			空気取り入れ口を汚染源のない方向に設け、かつ各種排気口と異なる方位に6m以上離して配置	3.0	5.0	0.50		3.0	-			
4.3 運用管理				0.2	1.0	0.20	-	-	-			
1 CO ₂ の監視				3.0	1.0	0.50		-	-			
2 喫煙の制御				3.0	1.0	0.50		-	-			
Q2 サービス性能				-	-	0.30	-	-	-	3.1		
1 機能性				0.4	3.0	0.40	-	-	-	3.0		
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40	-	-	-			
1 広さ・収納性				3.0	3.0	-		3.0	-			
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	-		3.0	-			
3 バリアフリー計画			独自	3.0	3.0	1.00		-	-			
1.2 心理性・快適性				0.3	3.0	0.30	-	-	-			
1 広さ感・景観 (天井高)			売場の天井高さを3.6m以上確保	3.0	5.0	0.33		3.0	-			
2 リフレッシュスペース				3.0	3.0	0.33		-	-			
3 内装計画				3.0	1.0	0.33		-	-			
1.3 維持管理				0.3	3.0	0.30	-	-	-			
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50		-	-			
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50		-	-			
2 耐用性・信頼性				0.3	2.7	0.31	-	-	-	2.7		
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-	-	-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80		-	-			
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20		-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.0	0.33	-	-	-			
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23		-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			②	-	3.0	0.23		-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09		-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08		-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.15		-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23		-	-			
2.4 信頼性				0.1	1.8	0.19	-	-	-			
1 空調・換気設備				3.0	1.0	0.20		-	-			
2 給排水・衛生設備				3.0	1.0	0.20		-	-			
3 電気設備			②	3.0	3.0	0.20		-	-			
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20		-	-			
5 通信・情報設備				3.0	1.0	0.20		-	-			

3 対応性・更新性				0.2	3.7	0.29	-	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			②	0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	-		5.0	0.60	-	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	3.0		5.0	0.40	-	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	3.0	-
3.3 設備の更新性				0.3	3.2	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	-		2.0	0.17	-	-	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0		3.0	0.17	-	-	-	-	
3	電気配線の更新性	3.0		5.0	0.11	-	-	-	-	
4	通信配線の更新性	3.0		5.0	0.11	-	-	-	-	
5	設備機器の更新性	3.0		3.0	0.22	-	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	-	-	1.9
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	1.5	0.30	-	-	-	1.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④	-	1.0	0.50	-	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		-	2.0	0.50	-	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	2.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	-	2.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=1.15	3.0	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.82	3.0	2.9	0.30	-	-	-	2.9
4 効率的運用				0.2	2.0	0.20	-	-	-	2.0
集合住宅以外の評価				1.0	2.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	1.0	0.50	-	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	-	2.7
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水				3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			② 独自	-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	1.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	4.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	2.3	0.22	-	-	-	2.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	2.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	1.0	0.50	-	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮			①	-	3.6	0.33	-	-	-	3.6
2 地域環境への配慮				0.3	2.4	0.33	-	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	適切な量の駐車場を設置し管理車両用の駐車施設も設置している			4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	2.7	0.33	-	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	0.33	-	-	-	-	
2	振動	独自	-	3.0	0.33	-	-	-	-	
3	悪臭		-	3.0	0.33	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	1.6	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	1.0	0.70	-	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす			-	5.0	0.70	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	-	

重点項目スコアシート

カインズ岡崎美合店

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新編)2016年版+あいも版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	2.9
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化：25.7%/建物緑化：0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 カインズ岡崎美合店

計画上の配慮事項	
総合	名鉄美合駅より西に1.1kmほどに位置し、かつてスーパーマーケット及び住宅展示場の跡地を造成しホームセンターを建設する。 岡崎市の特定授業手続き条例の規制に基づき敷地周囲に4mの緩衝緑地を設けた
Q1 室内環境	・建築材料はJIS・JAS規格のF☆☆☆☆建材をほぼ全面に使用 ・空気取り入れ口を汚染源のない方向に設け、かつ各種排気口と異なる方位に6m以上離して配置
Q2 サービス性能	・売場の天井高さを3.6m以上確保 ・階高3.9m以上確保 ・壁長さ比率<0.1 ・電力配線・通信に配管ラックを使用
Q3 室外環境(敷地内)	・外構緑化指数を25.7%確保
LR1 エネルギー	・建物の各種エネルギー消費量を年間に渡って把握し消費原単位等を用いてベンチマーク比較を行えるようにする
LR2 資源・マテリアル	・省水型機器、自動水栓機器を用いる ・内装材をLGS下地とし、躯体を損傷させずに改修が可能
LR3 敷地外環境	・ライフサイクルCO2排出率85% ・適切な量の自転車置場、駐車場を設置し管理車両用の駐車施設も設置している ・光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取り組みがあれば、ここに記載してください。